

# 呑龍ポンプ場土木工事現場 京都工学院高生徒が見学 将来の担い手に魅力伝える

京都府建設業協会

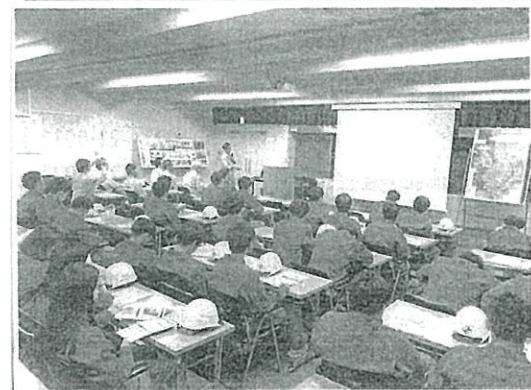
(一社)京都府建設業協会(小崎学会長)は25日、建設業の担い手確保の一環として高校生に建設工事の現場を肌で感じてもらうと、京都府流域下水道事務所



林JV所長 永瀆流域下水道事務所長 絹川府建協委員長

が洛西浄化センター(長岡京市勝竜寺種ノ口)で進める「桂川右岸流域下水道洛西浄化センター建設工事(呑龍ポンプ場土木)」(施工/オリエ

科都市デザイン領域2年生35人や引率教諭3人が参加。ニューマチックケーソン工法による大規模な地下構造物(ポンプ場)の施工現場を案内し、建設業の魅力を伝えた。



京都工学院高生徒が参加

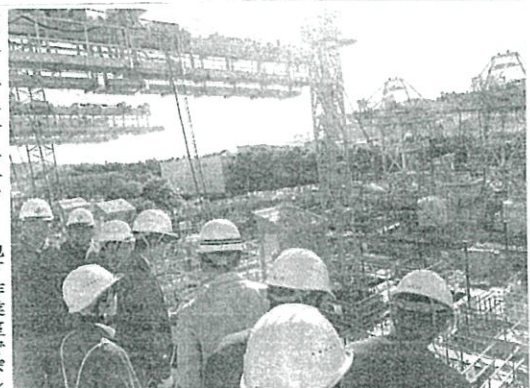
午後2時、府流域下水道事務所管理棟で開会式があり、府建協労務経営委員会の絹川雅則委員長は「業界で働こうとする後輩たちを育てていきたいのは発注者やJVのみならず、先人たちが積み上げてきた技術がこのレベルまで達している、人間にはこういうことができるのだと肌で感じてほしい。府やJVのみならず、たまたまに質問してほしい」と呼びかけた。

同事務所の永瀆直行所長が桂川右岸流域下水道雨水対策事業、JVの林富士男所長(オリエ

ンタル白石)らがニューマチックケーソン工法による工事の概要などを説明。永瀆所長は「みなさんが学んでいる土木工学は、市民生活や企業活動を支えるうえで非常に重要な技術。卒業してからも色々な場所で技術者として活躍されることを願っています」

る。林所長は「ニューマチックケーソン工法を見学できる機会は少ない。しっかり勉強してほしい」と話した。見学会では、生徒が4班に分かれてポンプ場

の施工現場やニューマチックケーソン工法の心臓部となるオイルフリースクリーンコンプレッサー、ニューマチックケーソン工法の仕組みがわかる模型、完成した南幹線シルドトンネルの発進立坑を見て回り、府やJVの担当者から説明を受けた。



ポンプ場の施工現場を見学

閉会式では、質疑応答を行った後、生徒代表が挨拶し、「今日は普段経験できない色々な現場を見学させてもらい、とても勉強になりました」と感謝の言葉を述べた。

地下作業室でポンプ場を沈めるための土砂掘削を進めており、9月20日時点でポンプ場本体の壁・地下2階床部分(6ロット/全11ロット)の鉄筋組立を行っている。20年8月末の完成を目指している。

雨水幹線整備事業では、呑龍ポンプ場のほか、調整池を洛西浄化センター敷地に設置し、向日市・長岡京市の公共下水道との接続施設6カ所(和井川、向日市西羽

20年度末に南幹線、呑龍ポンプ場、和井川と五間堀川5の接続施設を暫定供用。21年度から調整池や残りの接続施設の建設を進め、23年度末の完全供用を予定している。完全供用すれば現在の約2.2倍、25m

プール約800杯分となる23万8200m<sup>3</sup>の雨水対策が可能になる。

東師川、五間堀川1、同2・3、同4、同5)を建設する計画だ。

# 呑龍ポンプ場の建設現場で

## 京都工學院高生徒が見学会

### 京都府建設業協会

絹川労務経営委員長



一般社団法人京都府建設業協会(小崎学会長)は25日、京都市立京都工學院高等学校の生徒を対象にした建設現場見学会を開催。京都府流域下水道事務所が長

岡京市で進める「桂川右岸流域下水道洛西浄化センター」建設工事(呑龍ポンプ場土木)の現場を見学した。

現場見学会には京都工學院高校プロジェクト工学科

部市デザイン領域2年生35人、同校引率教諭3人、京都府建設業協会など45人が参加した。

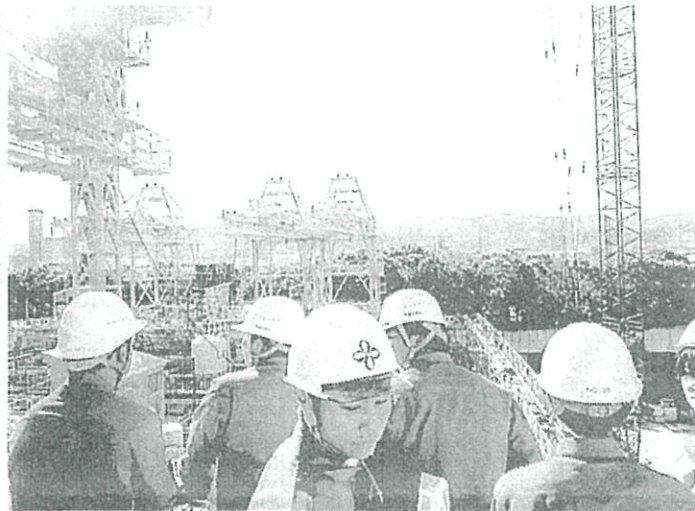


永濱所長(京都府流域下水道事務所)

林JV所長



呑龍ポンプ場の施工現場を見学



分業し、長岡京市勝徳寺樋 到着。永濱直行京都府流域ノ口の洛西浄化センターに 下水道事務所所長らが出迎

えた。京都府建設業協会の絹川雅則労務経営委員長は「後輩を育てていきたいという思いは発注者、JVの旨様も同じ。どれだけ大きな仕事をされているかを肌で感じられる機会だと思つてほしい」などと生徒を激励した。

永濱流域下水道事務所所長は、下水道の基礎的な知識や洛西浄化センターの施設の仕組みなどを解説した。工事を施工するオリエンタル白石一全下建設(桂川右岸流域下水道洛西浄化センター)建設工事(呑龍ポンプ場土木)の林富士男所長は「工事は概ね半分くらいは進捗。ニューマチックケーソン工法を見学できる機会が少ないと思つた。し

つかり勉強していただきたい」と述べた後、遠隔操作により地下で進められている掘削作業を動画で紹介した。京都工學院高生徒は4つの班に分かれ、発進立坑やニューマチックケーソンの構築状況を見学。ニューマチックケーソンの設備を見学するとともに、模型でニューマチックケーソン工法を学んだ。

呑龍ポンプ場は、府が進める桂川右岸流域下水道雨水対策事業の一環で、いづろは呑龍トンネルの最下流端に位置し、トンネル内に貯留できる14万8000m<sup>3</sup>の雨水を毎秒10m<sup>3</sup>(30秒間で25m<sup>3</sup>、1杯分(約300m<sup>3</sup>)の速さで桂川へ放流するためのポンプ場。呑龍ポンプ場は土木工事(地下部分)が平面寸法39m×42.5m、深さ42.7m、建築工事(地上部分)がRC造3階建、平面寸法39.5m×42.5m、高さ16.8m。設備工事として揚程30mの排水ポンプ(毎秒5m<sup>3</sup>×2台、桂川へ排水)を平成30年度、令和2年度、揚程33mの揚水ポンプ(毎秒5m<sup>3</sup>×1台、調整池へ揚水)を令和3年度、令和5年度に整備する。桂川右岸流域下水道洛西浄化センター建設工事(呑龍ポンプ場土木)の工期は令和2年8月31日までで、施工はオリエンタル白石一全下建設(桂川)特定建設工事JV。